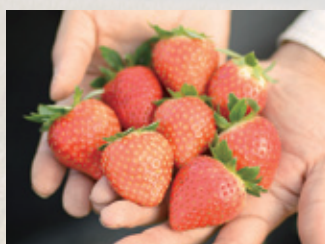


石岡市の魅力

石岡市は、肥沃な大地と温暖な気候にめぐまれ、東京都心から約70kmという優位性を生かしながら、米、野菜、果樹など、幅広い農業生産が行われています。特に、きゅうりを始めとした施設野菜、小菊などの露地花き類、れんこんなどの湛水性野菜の生産が盛んです。また、柿や梨などの果樹類の生産と、近年では有機農業が盛んであり、首都圏で高い評価を得ています。

石岡市の特産



いちご

直売や市場出荷、観光いちご園なども盛んで、いばらキッスやとちおとめなどを生産しています。



柿

昔から生産が盛んで、特に柿の王様と呼ばれる富有柿は皇室にも献上されています。



梨

八郷地区は県内有数の梨の産地で、青果物銘柄指定産地に指定されています。



きゅうり

表皮が薄くみずみずしい、昔ながらのブルームきゅうりなどが生産されています。



有機野菜

70年代から八郷地区に広がり、国内有数の有機野菜産地となっています。



小菊

県の銘柄産地の指定を受け、年間約350万本が出荷されています。

朝日里山ファームについて

コンセプト 県内初、担い手を育てる産地へ

朝日里山ファームは、農業で独立を目指す青年の研修農場です。石岡市柴内にある体験型観光施設「朝日里山学校」周辺の耕作放棄地を再生し、有機農業(有機農業コース)の圃場として整備しました。

また、令和2年度から果樹・施設園芸コースを新設し、果樹などの研修制度をスタートしました。

施設概要

- 有機農業圃場 …………… 1.6ha
 - 作業場・加工施設 …………… 1棟
 - パイプハウス …………… 2棟
 - トラクター・管理機など農作業機材
 - 資材ハウス …………… 1棟
- ※果樹・施設園芸コースは、品目に合わせて圃場を用意します。



朝日里山ファーム

〒315-0143 茨城県石岡市柴内630
TEL.0299-51-3117



石岡市

【相談窓口】石岡市新規就農者支援センター(石岡市役所農政課内)

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680-1
TEL.0299-43-1111 FAX.0299-43-6384



朝日里山ファーム
石岡市新規就農者
研修施設
石岡市で農業はじめよう!





最初から 独立した農家としての経験が積めます。

第4期生 有機農業コース 宮川 竜さん 友美さん

若い頃から農業に興味があった宮川さん。しかし、農業は農家に生まれた人が後を継ぐイメージが強く諦めていました。その後、東京でIT関連の仕事に就き、友美さんと結婚。しばらくは充実した生活を送っていましたが、地震などの自然災害が増えるにつれ、東京で生活するリスクを考えるようになったといいます。そんなとき思い出したのが、昔から関心があった農業です。早速、地元茨城で就農する方法をネットで検索。そこで出会ったのが、朝日里山ファームです。その後、つくばで開催された新農業人フェアで直接話を聞き、朝日里山ファームの研修生になることを決めました。

研修はJAやさとの有機栽培部会に所属する指導農家のもとで行われます。と言っても、付きっきりで指導されるわけではなく、有機農法の基本を教えていただければ自分次第。作りたい作物を決め、自分なりに生産をスタートします。もちろん、迷ったときなどは指導農家の方がアドバイスしてくれるので安心です。「農業法人に雇用されて働くのとは違い、最初から独立した農家としての経験を積むことができます。収穫した作物は全てJAやさとに納めるので、販路が確保されていることも魅力ですね」。

人間関係も、とても良好だそうです。「2カ月に1回、有機栽培部会の定例会があるのですが、どんな話が聴けるのか、毎回、楽しみにしています」。友美さんも「石岡市八郷地区は移住者の方が多いので受け入れ態勢が整っているのではないのでしょうか。近所を歩いていると、よく声をかけられて農業に関する情報を教えていただいたりもします。私にとって、東京よりずっと暮らしやすい町ですね」と話していました。

将来は、さらに地球環境に配慮した有機農法を自分なりに実践したいと考えています。「SDGsが世界的に提唱されているように、環境への配慮は欠かせません。例えば、鶏を飼育して鶏糞を肥料とするなど、さまざまな取り組みを行いたいですね」。昔の農家のように、循環型の農業を実践したいと宮川さんは話していました。



気兼ねなく相談できる人間関係が魅力です。

第5期生 有機農業コース
渡邊 拓海さん 若菜さん

もともと自然に興味があったお二人は、千葉大学の園芸学部で出会いました。その頃から農業をやりたいという思いはありましたが、農業は農家に生まれた人の仕事と諦め社員への道に進みました。そんなお二人が就農を決めたきっかけは、若菜さんが偶然視聴したテレビ番組。朝日里山ファームの特集を見て、自分たちも農家になれるかもしれないと感じたそうです。それから詳しく調べ、これならやっていけると朝日里山ファームの研修生になることを決めました。

研修内容は、自分たちで生産する作物や出荷量を決め畑仕事を行うとても実践的なもの。分からないことや困ったことがあれば、指導農家がどんなことでも詳しく教えてくれます。指導農家の方々自身、転職して農家になった方が多いので、親身になって指導してくれます。「気兼ねなく、何でも相談できるので安心ですね。人間関係に悩むことはありません」。若菜さんは「地元の年配の方も、とても優しく接してくれます。それから、町おこしイベントをプロデュースする若い方達とも知り合えて、楽しいお話を聞かせていただいています」と話していました。

「将来的には友人や親戚、また農業に関心のある方が農作業を体験できるような農園を目指しています。自分たちが収穫した野菜を持ち帰っていただき、その美味しさを味わっていただきたいですね」。たくさんの人が集まる観光農園づくりが渡邊さんの現在の目標です。



新規就農者 研修制度

永続的な 地域農業のために

有機農業コースでは、研修に必要な圃場、トラクターなどの機材や設備が揃っています。また、栽培については豊富な知識と技術をもった就農指導員が実践的な指導を行うほか、JAやさと有機栽培部会員が自分の経験を生かしたサポートを行います。

果樹・施設園芸コースでは、生産農家が指導員になり、技術の習得や経営面のサポートをします。

就農指導員は、研修終了後の農地の確保や住居の斡旋など、さまざまな問題に対する相談も行い、研修生の独立をあらゆる面でサポートします。



資格・条件など

- 1 研修生となる資格は「農業でやっていく」という強い気持ちがあること。年齢は45歳まで。
- 2 研修開始までに市内に移住し、居住することが確実であると見込まれる者。
- 3 研修は2年間。毎年1組ずつ受け入れるため、同時期に2組が研修を行うこととなる。
- 4 研修農場、パイプハウス、トラクターなどの農機具や資材は朝日里山ファームが提供する。
- 5 研修終了後は、市内で就農する。

国の支援制度により、就農前の研修を支援します。研修を終えた独立直後の経営を支援する制度*も用意しています。 ※市町村から認定を受ける「認定新規就農者」が対象。

